

織田信長と京都

（財）京都市埋蔵文化財研究所　山本　雅和

織田信長の入京

永禄 11 年（1568）に足利義昭を擁立して入京して以降、天正 10 年（1582）の本能寺の変まで、織田信長は頻繁に京都を訪れ、上京を焼き討ちするなど大きな影響を与えました。しかしながら、一貫して京都を政治的拠点とすることがなかったことから、思いのほか信長に関わる遺跡がのこっていません。

今回は信長ゆかりの遺跡の中から、調査によってわかってきた足利義昭の武家御城・南蛮寺・二条新造御所・本能寺のようすを紹介します。

足利義昭の武家御城

地下鉄烏丸線の調査で石垣が見つかり「旧二条城」と命名された遺跡は、信長が 15 代将軍となった足利義昭のために永禄 12 年（1569）から造営した施設です。義昭の兄である 13 代将軍足利義輝の屋敷を拡充したもので、北側は出水通、南側は丸太町通付近、西側は新町通付近、東側は烏丸通あるいは東洞院通付近（現在の京都御苑の中）までの範囲が推定されています。

調査では出水通・下立売通・榎木町通・丸太町通付近の 4 箇所で堀をとまなう東西方向の石垣が見つかったことから、二重の堀に囲まれた立派な城郭であったことがわかります。石垣の石材には河原石に加えて石仏や石塔を転用しています。堀を埋めた土からはたくさんの陶磁器や瓦が出土しましたが、中でも思い掛けない遺物には刀で首を打ち落とされた頭蓋骨があります。

見つかった石垣の一部は京都御苑下立売御門北側と現在の二条城に移築保存、石垣に転用された石造仏は洛西ニュータウンの竹林公園に保存されています。

南蛮寺

南蛮寺とはキリスト教の教会堂のことで、京都には室町通と新町通に挟まれた四条坊門小路（現在の蛸薬師通）北側にありました。イエズス会宣教師オルガンティーノが信長の信任を受けて、キリシタン武将として有名な高山右近らの協力を得て天正 4 年（1576）に建立したものです。『洛中洛外名所図扇面』には鐘楼を備えた 3 階建ての建物が描かれています。

同志社大学による発掘調査では、大きな礎石が見つかりました。また、ズボンをはいた人物を描いた線彫りがある石製硯が出土しています。

出土した礎石は同志社大学今出川キャンパス構内に移設され、見学することができます。

二条新造御所

二条新造御所は元は摂政や関白をつとめた公家の二条家の邸宅で、押小路通と烏丸通交差点の南西側にありました。その庭園は名園として知られており、『洛中洛外図屏風』にも池を眺める貴族の姿が描かれています。二条家が別の邸宅に移った後、信長は天正 5 年（1577）から京都で滞在するときの宿舎として利用しましたが、天正 7 年（1579）には正親町天皇の皇太子であった誠仁親王に献

上します。そのために天正 10 年（1582）の入京の際は本能寺を宿舎としたので「本能寺の変」が起こったわけです。また、本能寺の変にあたっては息子の織田信忠が二条新造御所に立て籠もって明智光秀の軍勢に抗戦しますが、衆寡適せず、家臣たちと共に自刃しました。

発掘調査では、鎌倉時代から戦国時代にかけて整備が続けられた池の洲浜や庭石が見つかりました。信長もこの庭園を眺めたはずです。また、本能寺の変で信忠が自刃した二条新造御所のようすはわかりませんでした。江戸時代初頭には池を埋め立て、複雑な形に組み合わせた用途不明の石垣が作られました。

本能寺

天正 10 年（1582）6 月 2 日の早朝、明智光秀が本能寺に織田信長を急襲した「本能寺の変」は、豊臣秀吉が天下人となる大きな契機となった事件です。

現在の本能寺は寺町通御池交差点の南東側にありますが、これは天正 19 年（1591）に秀吉の命令で移転したもので、本能寺の変の時には北を六角通、東を西洞院通、南を四条坊門小路（現在の蛸薬師通）、西を油小路通に囲まれた場所にありました。

最近まで本能寺の実態についてはほとんどわかっていませんでした。しかし、2007 年に行われた 3 回の発掘調査により、周囲が堀で囲まれ、内部も石垣を備えた堀により区画されること、境内中央部には礎石をもつ建物があること、瓦葺きの建物があり火災で焼失したことなどが明らかとなってきています。出土遺物には輪宝りんぼうを額に戴いた鬼面や龍が巻き付く意匠の鬼瓦、本能寺の寺号「能」の異体字である「能」の文字を刻んだ軒丸瓦、掛け軸こほくの琥珀製の軸端のほか、火災の激しさを物語る熱を受けて赤く変色した瓦や焼けた壁土などがあります。

引用・参考文献

- 『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報』Ⅰ～Ⅲ　京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会　1980～1982 年
- 吉本健吾「織田信長ゆかりの遺跡を訪ねて」『リーフレット京都No.42』（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館　1992 年
- 玉村登志夫「発掘が語る信長二条城」『二条城』学習研究社　1996 年
- 川上貢「将軍義昭の武家御城と織田信長の二条新造御所」『リーフレット京都No.121』（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館　1999 年
- 『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002 - 7　平安京左京三条三坊十町（押小路殿・二条殿）跡』（財）京都市埋蔵文化財研究所　2002 年
- 『京都市文化財ブックス第 20 集　京の城　-洛中・洛外の城郭-』京都市文化市民局文化部文化財保護課　2008 年
- 『本能寺跡発掘調査報告　平安京左京四条二坊十五町』関西文化財調査会　2008 年
- 『平安京左京四条二坊十五町跡・本能寺城跡』『京都市内遺跡発掘調査報告　平成 19 年度』京都市文化市民局　2008 年
- 『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007 - 11　平安京左京四条二坊十五町跡・本能寺城跡』（財）京都市埋蔵文化財研究所　2008 年
- 山本雅和「本能寺の変を調査する」『リーフレット京都No.231』（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館　2008 年

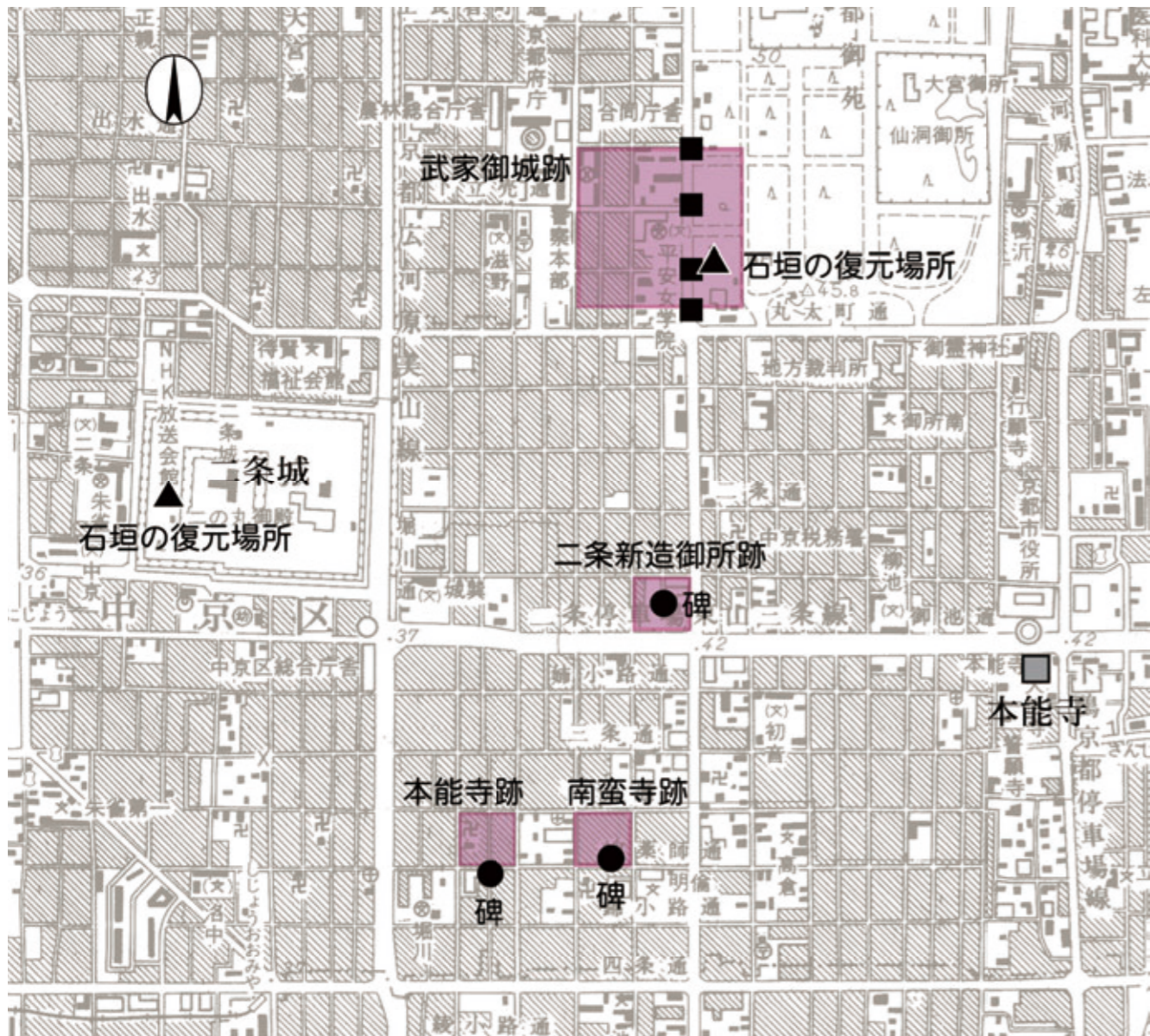


図1 遺跡位置図 (■は石垣が見つかった地点)

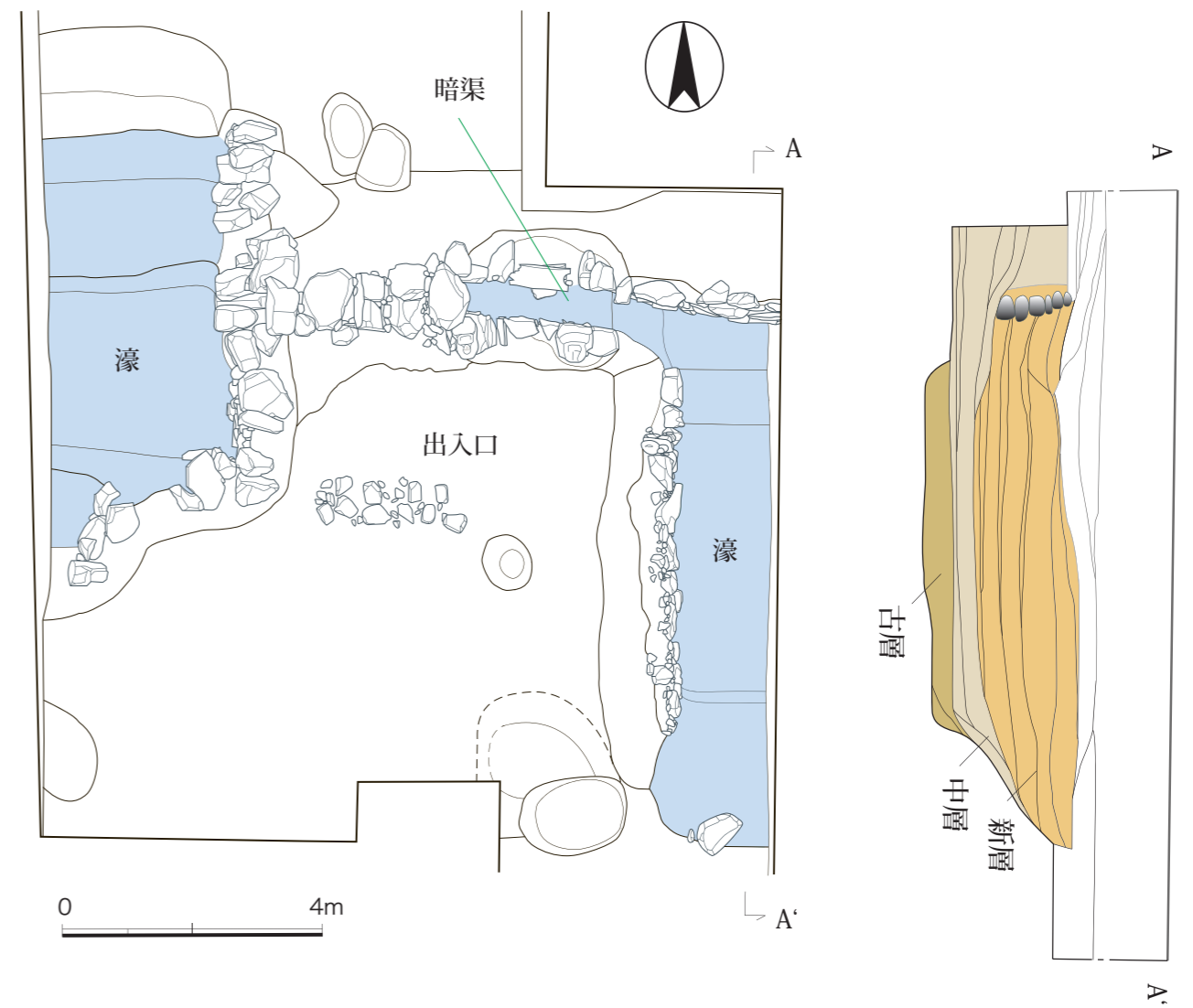


図3 武家御城の石垣平面図・断面図(出水通付近)

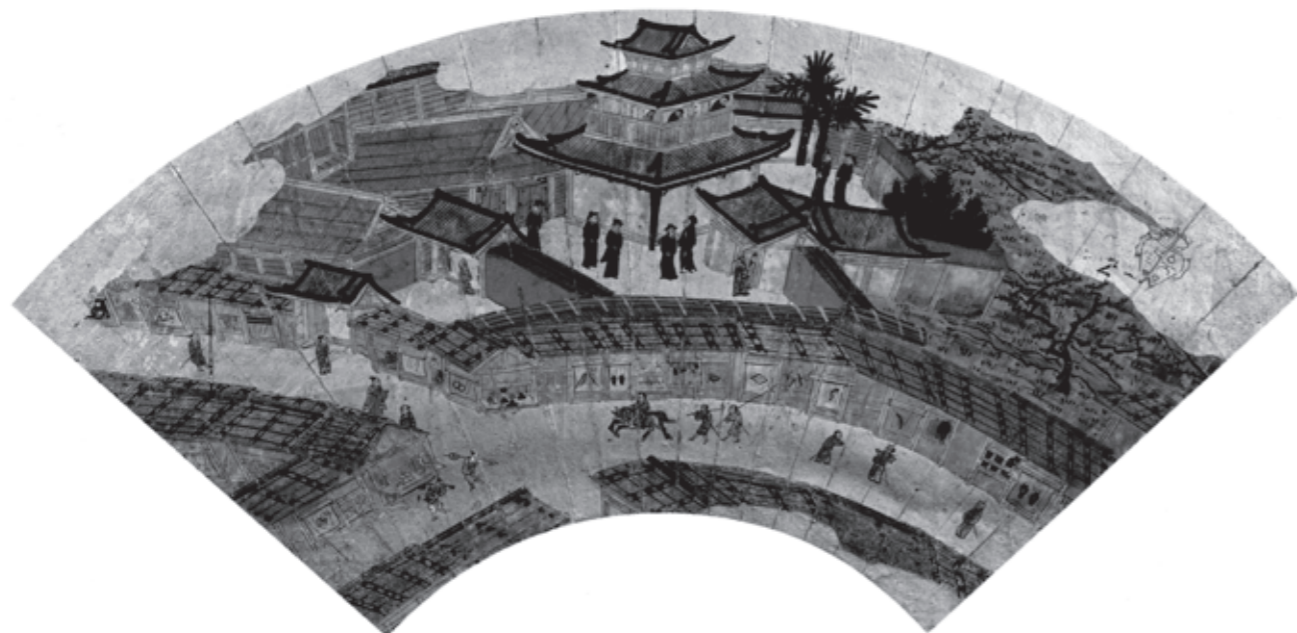


図2 描かれた南蛮寺(『洛中洛外名所図扇面』)

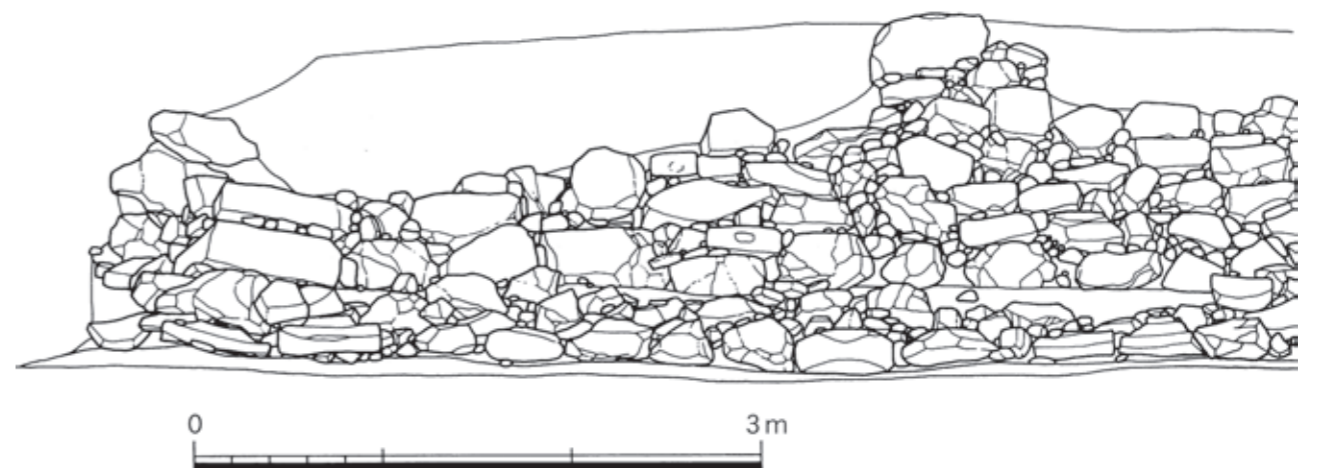


図4 武家御城の石垣立面図(下立売通付近)

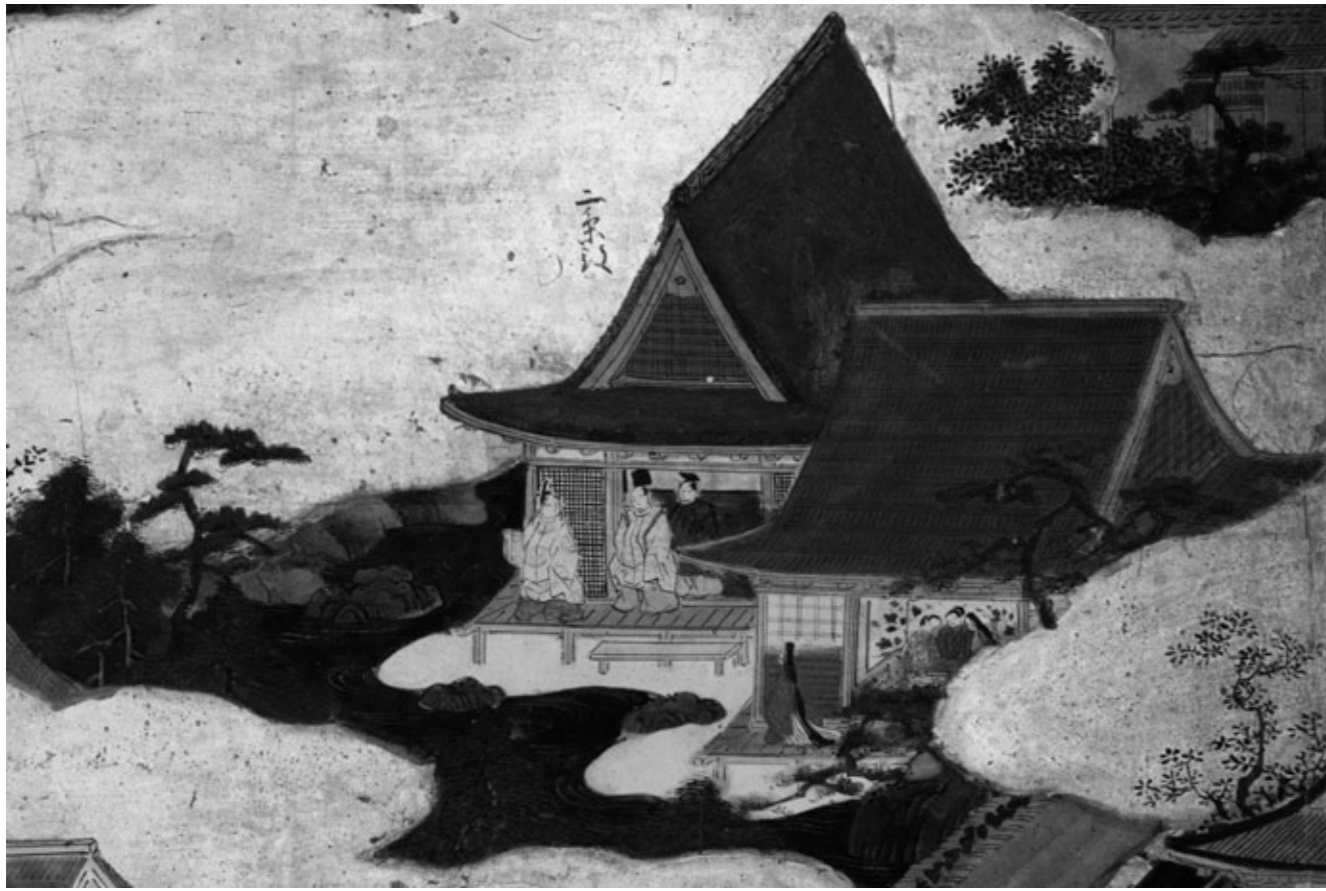


図5 描かれた二条殿(上杉本『洛中洛外図屏風』)

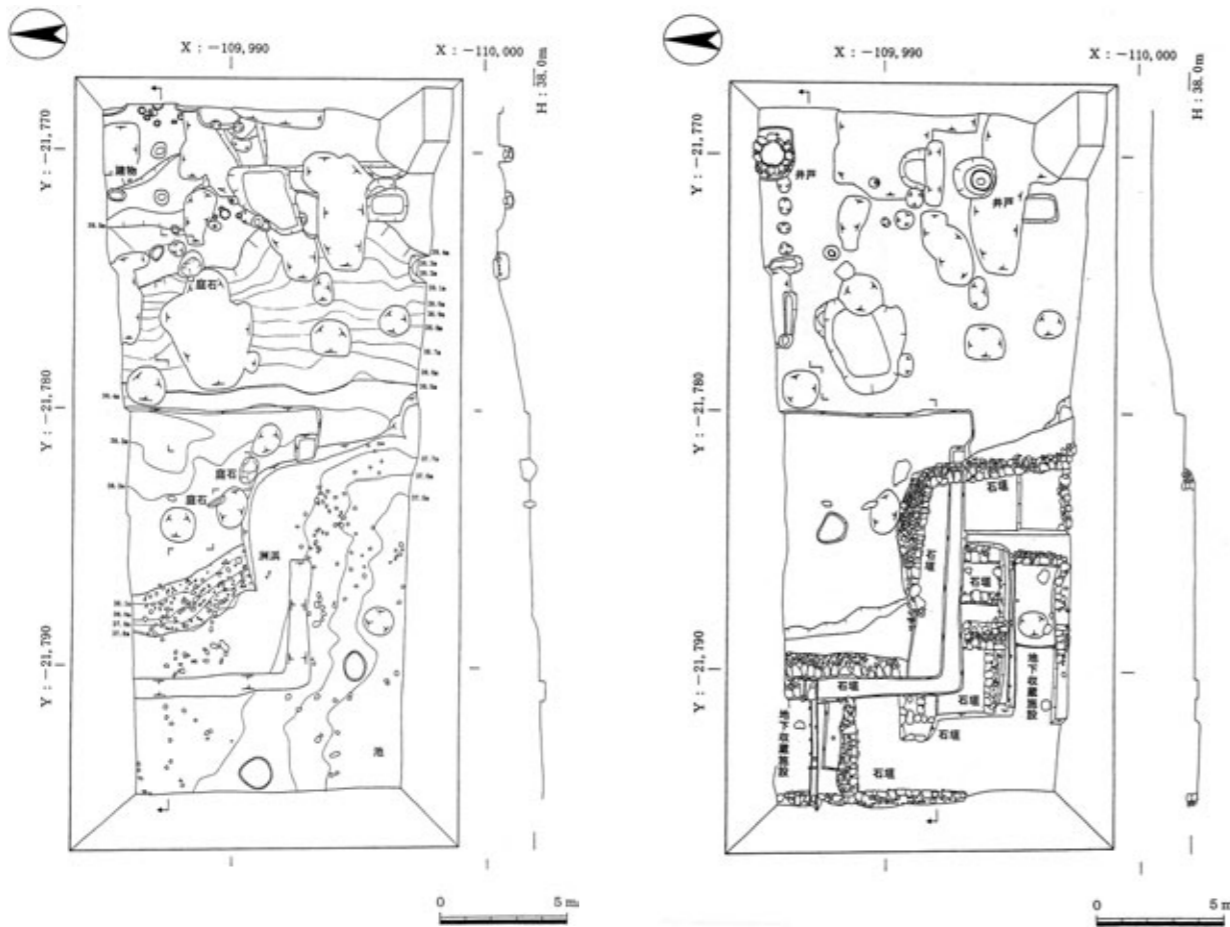
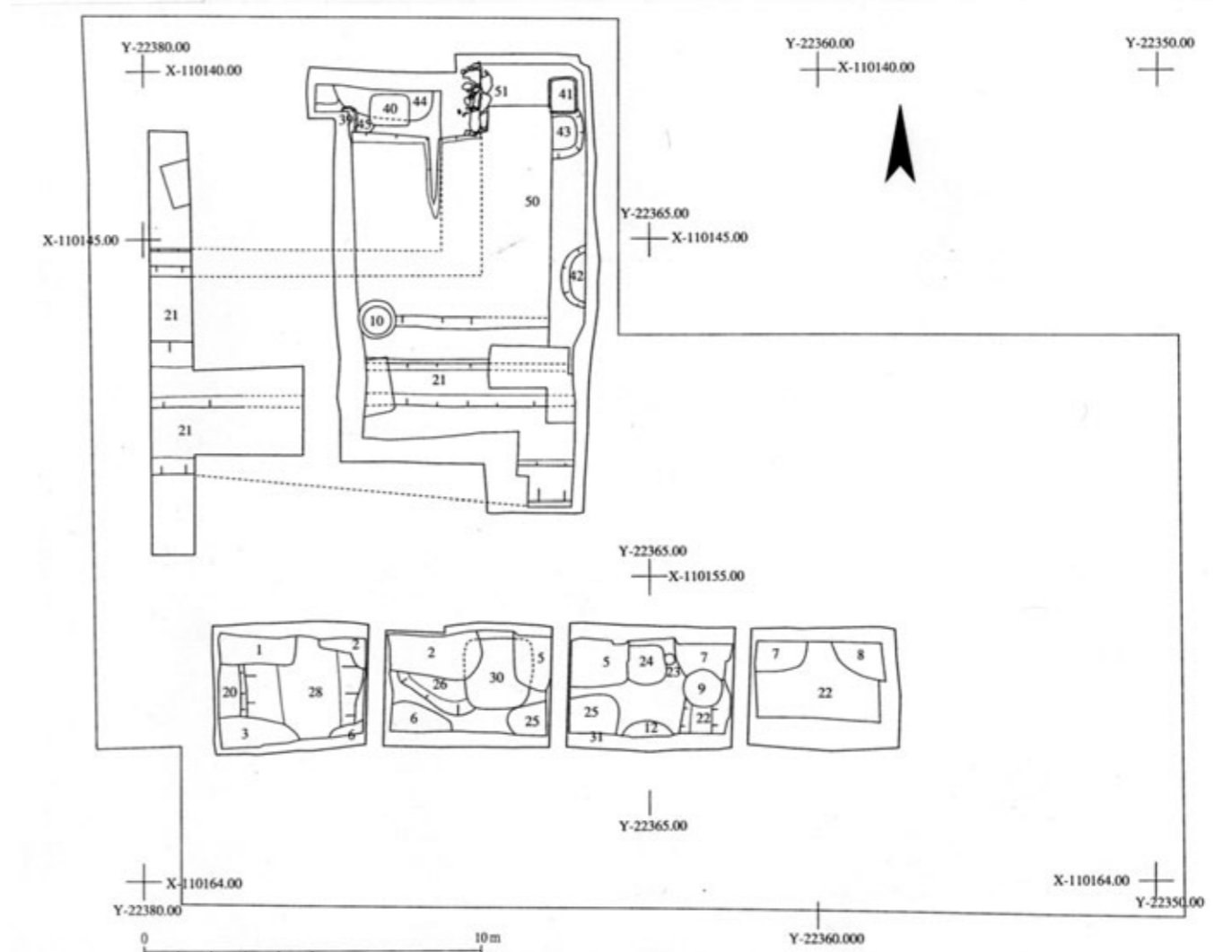


図6 二条新造御所跡の調査(左:戦国時代 右:江戸時代前期)

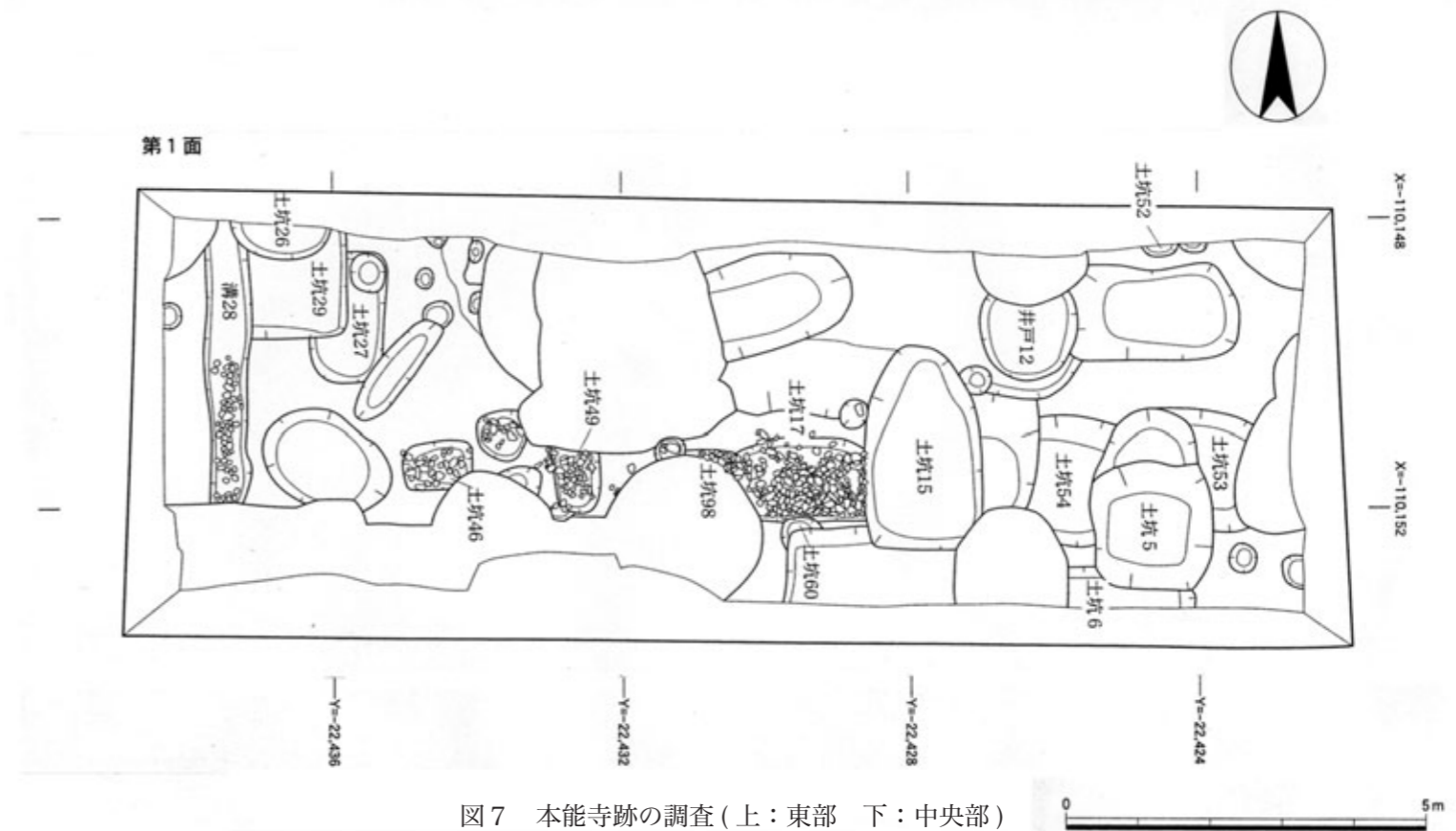


図7 本能寺跡の調査(上:東部 下:中央部)